



諏訪

発展する諏訪湖周辺

名古屋税関 諏訪出張所 所長
水嶋 英子

① はじめに

名古屋税関諏訪出張所は、長野市に所在する長野地区政令派出事務所とともに長野県全体を管轄しています。長野県における税関の沿革は、まず昭和36年7月に長野県庁内に長野派出所が設置（のち出張所に変更）されました。その後、諏訪地区への内陸地税関誘致に向けた活動が、地域の官民が一体となって展開され、昭和55年諏訪地区政令派出所開設を経て、昭和63年7月に諏訪出張所が開設され、それまでの長野出張所が政令派出所に変更になり現在に至ります。長野県内では、戦後から精密部品製造が盛んであり、当出張所では、主に精密機械部品や情報機器等の輸出通関業務や、県内に点在する保税地域の管理監督を行っています。

ところで皆さんは出身地の都道府県歌をご存知でしょうか？長野県は、「信濃の国」という県歌があり、様々な行事において歌われていることから県民に深く馴染みがあります。「信濃の国」では、日本の屋根である北・中央・南アルプスや、日本海、太平洋に流れゆく河川に囲まれた風光明媚な県土が情趣に富んだ歌詞で歌われており、その中に登場する天竜川の源となる諏訪湖の程近く、標高約760mの場所に当出張所は所在しています。

② 発展する諏訪地域

●新たな玄関口「(仮称) 諏訪湖サービスエリア スマートインターチェンジ計画」

諏訪湖周辺は山地に囲まれ、諏訪大社や温泉、美術館や博物館が集まる観光地でもあり、また、高度な技術力を誇る企業が集結し、精密加工業が盛んな地域です。一方、観光資源、産業資源へのアクセスは国道や市町村道の渋滞箇所を通過しなければならず、交通の円滑化と安全性が失われており、加えて、大規模災害等における物資輸送手段の確保が課題となっていました。

諏訪市と岡谷市では、諏訪ICと岡谷ICのおおむね中間に位置する諏訪湖SAへのスマートインターチェンジ設置に向け、調整・検討を重ねた結果、令和元年に国土交通大臣から中央自動車道と諏訪市道、岡谷市道への連結が許可されたため、事業化を決定し、2023年度末の供用開始を目標に計画を推進しています。

スマートインターチェンジ整備により、観光資源、産業資源へのアクセスの格段の向上、地域道路や既存ICの渋滞緩和、観光客の増加、産業の更なる発展、生活環境の確保、災害時・緊急時の重要輸送路の確保など将来の大きな地域活性化が期待されます。



【諏訪湖SIC完成予想図】

●諏訪湖かわまちづくり「諏訪湖周サイクリングロードの整備」

諏訪湖一周は約16kmで、諏訪湖畔には専用のジョギングロードが整備され、地域住民や観光客がランニングを楽しみ、毎年秋にはハーフマラソン大会も開催されています。

近年の健康志向の高まりや観光資源を巡る移動手段として、自転車の利用者も増えてきていますが、ジョギングロードは自転車の走行ができないため、諏訪湖周におけるサイクリングの推進とサイクリング観光のさらなる活性化を目的とし、長野県と諏訪湖周3市町により、ジョギングロードに並走するサイクリングロードの整備を2023年の全面開通を目指して進められています。また、既存施設の有効活用によるサイクリストの休憩施設「小路の駅」の整備、サイクルラック、サイクルスタンドの設置、宿泊施設等におけるレンタサイクル・シェアサイクル事業など、快適で安全・安心にサイクリングができる環境の整備も進められています。

諏訪湖周サイクリングロードは、国の「自転車活用推進本部」のホームページで紹介されている、全国36か所のサイクルツーリズムの推進モデルルートとして長野県内では唯一取り上げられている場所となっ

ており、諏訪湖周辺では、地元有志の「サイクリングガイド」により、自転車を利用して地域の魅力を伝えるサイクリングツアーも実施されています。

諏訪湖畔には、富士山が見える場所や公園、多くの飲食店や宿泊施設のほか、足湯や日帰り入浴施設もあり、サイクリングをしながらグルメや足湯を堪能し、諏訪湖の優れた自然の景観やアートに触れながら、1日中楽しむことができます。サイクリングを楽しんだ後は、温泉施設に宿泊して疲れた体を癒す滞在型の観光地として、サイクリングロードの整備とともに、まちづくり計画に取り組んでいます。



【諏訪湖周サイクリングロード】

●オトナゴコロ、くすぐる「SUWAプレミアム」

空をぽっかりと水面に映す諏訪湖と緑豊かな山々に囲まれている諏訪地方。「東洋のスイス」と謳われたこの地は、古くは製糸業で栄え、戦後は時計・カメラ・オルゴールなどの精密加工技術を中心に発展してきました。

現在でも精密加工技術を主流に、気候や風土を活かした“ものづくりのDNA”はこの地を支え、受け継がれています。そして新たな“人や企業との連携”を経て、「SUWAプレミアム」というブランドが誕生しました。

ブランドコンセプトは「澄み切った繊細さ」。

この諏訪地域に対する誇りと愛情を原動力にこれまで作り手が培ってきた技術や情熱を、新たな作り手と

なるクリエイターや異業種のコラボレーションによって新たな商品を生み出す活動として、諏訪地域で開発、製造、制作された商品に対してブランド認定を行う制度を設け、各種専門家で構成されたブランド推進委員によって認定審査が行われています。

精密技術から生み出された手のひらサイズの単眼鏡や酒器、豊かな自然と技術開発から生まれた化粧品、素材にこだわったクラフト製品など認定を受けた商品は現在170品目。2018日本文具大賞デザイン部門優秀賞受賞のスタイリッシュな万年毛筆、2019グッド・トイ受賞の独楽など、高レベルの技術とクオリティの品々が、オフィシャルショップやオンラインショップで販売されており、諏訪地域の技術力を手にすることができます。



【超小型単眼鏡】



【スタイリッシュな万年毛筆】

③ 日本一空に近い 松本空港

県営松本空港は、愛称「信州まつもと空港」と呼ばれ、長野県のほぼ中央に位置する松本市及び塩尻市に所在する地方管理空港（※1）です。周辺は景勝地として有名な上高地を有する北アルプスをはじめとした山岳に囲まれ、空港の標高は657.5mと日本の空港で一番高い場所にあることから「日本一空に近い空港」と言われています。

昭和40年7月に開港し、平成10年に開催した長野オリンピックに先立ち、平成6年にジェット化（※2）及び旅客ターミナルビルが新設されました。定期便は、現在国内線のみで新千歳、福岡及び神戸のほか、夏季のみ札幌（丘珠）、大阪（伊丹）間で運航していますが、国際チャーター便も近年急増しており、令和元年度には過去最高の44便が運航されました。

現在の旅客ターミナルビルは、国際線を想定しておらず、国際チャーター便を受け入れるたびに既存施設に仕切りを設けるなどしてCIQの動線を確認しています。また、松本空港に税関職員は常駐していないので、チャーター便の運航に合わせ諏訪出張所の職員が官用車で片道45分の距離を出張して検査対応をしています。

長野県は、平成28年6月に「信州まつもと空港の発展・国際化に向けた取組方針」を策定し、国内路線

の拡充や空港の国際化等に積極的に取り組んでいます。その一環として国際線専用の入国審査及び税関検査のための臨時施設を整備することとしており、並行して国際線にも対応可能な旅客ターミナルビル整備に向けた検討が進められています。

※1 空港法第5条第1項に規定する国際航空輸送網又は国内航空輸送網を形成する上で重要な役割を果たす空港をいう。（国土交通省HPより抜粋）

※2 ジェット機の運航に必要とされる滑走路を整備すること。中小型ジェット機（A-300、B-767など）の運航を前提とすればおおむね2,000mの滑走路が必要。

④ 終わりに

長野県のキャッチフレーズは「しあわせ信州」。

ここまで紹介したもの以外にも、日本一の星空や雄大な山々で豊かな自然を感じ、善光寺や松本城で歴史や文化に触れ、信州そばや生産量全国一の味噌（名古屋税関の統計特集でウェブ掲載しています（2019年12月））のグルメを楽しむなどなど、書ききれないほどの魅力があります。

ぜひ皆様も、信州にしあわせを見つけに来てください。

（写真・資料提供：長野県、諏訪市）



【信州松本空港で長野県をPRするアルクマ】
（提供：信州松本空港利用促進協議会）

八重山

石垣税関支署と 魅力ある八重山諸島

沖縄地区税関石垣税関支署統括監視官（総括部門）
國吉 直樹

① はじめに

石垣税関支署は、沖縄県先島地区（八重山地域、宮古地域）を管轄する税関官署ですが、1886年（明治19年）西表島から採掘される石炭の輸出手続きを処理する目的で設置された長崎税関内離（うちばなり）出張所が始まりです。同出張所は沖縄県における税関の起源でもあります。1889年（明治22年）に廃止され、別途1899年（明治32年）に石垣島に長崎税関八重山監視署（後に八重山出張所）が設置され（注1）終戦を迎えました。終戦後、アメリカ統治下の先島地区における税関は、琉球政府の下に琉球税関八重山支署が設置され、沖縄が本土復帰した1972年（昭和47年）に沖縄地区税関石垣出張所（注2）、1994年（平成6年）に石垣税関支署へ昇格し、現在に至ります。所在地は沖縄県石垣市で、管轄地区は石垣市、宮古島市、八重山郡（竹富町、与那国町）及び宮古島郡（多良間村）です。

（注1）第二次世界大戦前は長崎税関が管轄。

（注2）終戦後は沖縄の本土復帰までの間、琉球政府の下に設置された琉球税関が管轄。



② 石垣税関支署管内の動向について

石垣島は平成9年より台湾からのクルーズ船が寄港を開始し、以後、一時中断はあるものの継続して運航されています。特に近年の寄港回数の伸びは著しく、

平成25年の入港隻数は62隻であったが、令和元年は147隻と約2.4倍に増加しており、自然豊かな石垣（八重山諸島）はクルーズ船の寄港地として人気があります。

また、平成25年に移転・開港した新石垣空港は、滑走路が移転前の1,500mから2,000mへ伸長され、国内線及び国際線の旅客ターミナル施設が整備拡充されたことに伴い、中型ジェット機やLCCの就航による大幅な利便性の向上を受け、島民の移動や観光客やビジネス客が激増しています。平成29年4月1日には全国で31番目の税関空港に指定されました。

このため、外国人観光客数も増加しており、八重山地域における外国人観光客数は、平成25年は89.8万人であったが、令和元年は240.3万人の約2.6倍と急激に伸びております。

また、管内の宮古島郡の下地島では、平成31年3月に南国情緒あふれる下地島空港が供用開始され、同年7月には初の国際線として香港便が就航しました。また、宮古島の平良（ひらら）港においては、クルーズ船ターミナルビルの建設が進んでおり、宮古島地域においても観光客はますます増加することが予想されます。



③ 八重山諸島について

八重山諸島は沖縄本島の南西に位置する島々の総称で、八重山諸島の中心である「石垣島」、東洋のガラパゴスと称されイリオモテヤマネコで有名な「西表島」（いりおもてじま）、有人島として日本最南端に位置し満天の星空に南十字星も輝く「波照間島」（はてるまじま）、日本で唯一台湾が肉眼で見える日本最西端の「与那国島」（よなぐにじま）などがあります。

また、沖縄県内で一番高い山である於茂登岳（おもとだけ・標高526m・石垣島）、一番長い川である浦内川（支流を含めると全長39km・西表島）、一番落差が大きい滝であるピナイサーラの滝（55m・西表島）、なども八重山諸島にあります。

○自然

八重山諸島の魅力はなんといっても、その自然にあります。国指定の名勝「川平湾」（かびらわん）や夕日の美しさに息をのむ「御神崎」（うがんざき）、国の天然記念物「宮良川のヒルギ林」（マングローブ）が特に有名です。石垣市北部にあるバナナ公園は森林公園として一年中多くの花々が咲き誇り、公園内のバナナ岳は市内を一望できる絶景のスポットとなっています。

また八重山ブルーと称される美しいサンゴ礁の海。八重山でのマリンスポーツは一度体験すると癖になること間違いありません。



御神崎（うがんざき）



バナナ岳から望む石垣市内。クルーズ船が入港しております。

○食文化

独自の食文化を育んできた八重山。まず泡盛ですが、なんとこの小さい島々の中に10か所の酒造所があり、それぞれ独自の味わいが楽しめます。

食べ物ですが、細い丸麺が特徴である八重山そばは、出汁を豚骨やカツオでとり風味豊か、八重山の特産である島胡椒を入れ食べます。島胡椒はピパーチ、ピパーツ、ピイヤーンなど様々な呼び方があります。また、サトウキビ栽培も盛んな八重山諸島。それぞれの島に製糖所があり、そこで作られる黒糖は島により味が違います。

私見ですが、八重山の食で一番のおすすめは、ずばり「近海マグロ」です。石垣市街には無数のさしみ屋（沖縄では鮮魚店のことを「さしみ屋」と呼びます。）があります。そのため、競争が激しく、美味しいさしみ屋が多いのです。さしみ屋は漁師であるお父さんがとってきた魚をお母さんがさばいて店に並べるスタイルが多く、1パック500円が一般的で、その量と味に満足しない人はいません。また、さしみ屋では沖縄てんぷらも同時に店頭にならんでいます。新鮮な魚を揚げたててんぷらもとてもおすすめです。味もさることながら、量も素晴らしく、4人家族であれば500円分（15個くらい入っています）で大満足です。ちなみに沖縄のてんぷらはおやつがわりに食べる事が多く、厚い衣でボリュームがあり、基本的にウスターソースで食べます。



とても美味しいマグロのさしみと天ぷら。
それぞれ500円でこのボリューム

春先から初夏にかかる今の時期には、石垣島のパイナップルが並びます。石垣島の赤土土壌に育つ、甘く美味しいパイナップルです。石垣島のパイナップルは、1930年代に台湾からの移住者により生産が始まり、今や島のメイン産業となっています。本土や外国からの観光客にも好評で「一度食べたら忘れられない味」と言われています。



5~8月は道端で無人販売も行われています

④ 今年の観光について（新型コロナウイルス）

八重山諸島の主な産業は観光です。美しく豊かな自然、美味しい食べ物の魅力もあり、クルーズ船の寄港も年々増え、観光客の数は、右肩上がり伸びていました。しかし、今年前半は新型コロナウイルスの影響により、観光地に人はなく、市場や繁華街も閑散としており、今年の観光客の数は大幅に落ち込むことが予測されます。

沖縄県においても5月に非常事態宣言が解除され、日常を取り戻す努力がされていますが、ここ八重山諸島における観光業の復活にも一朝一夕とはいかない、非常に難しいものを感じます。

⑤ 終わりに

なんといっても八重山諸島の魅力は、多くの島々からなる壮大な自然や本土と異なる動植物の生息が身近に感じられることや、独特の文化に見られる風習や食べ物に接することができる地域であるということが言えます。

こうした自然や文化は、八重山諸島が古くから大切にしてきたものであり、それは未来へ繋ぐ普遍的なものでもあります。

今は新型コロナウイルスの影響により、島に行くことが難しいこともあるかと思いますが、八重山諸島の魅力はこれから先も何ら変わりませんので、ぜひ来て、見て、食べて体験してほしいと思います。

(参考文献)

八重山入域観光客数統計概況（沖縄県）

沖縄県庁ホームページ（沖縄県土木建築課資料）



石垣市内ユーグレナモール。GW夕方の様子。
通常は活気に満ちた商店街が閑散としていました。